

安浦中学校区 カリキュラムマップ

目指す児童生徒像

確かな学力を身に付け、心豊かにたくましく生きる児童生徒

1 「育成すべき資質・能力」の具体の姿

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力	自己肯定感	協働	感謝・貢献
後期	各教科等に関する個別の知識や技能などを確実に身に付けている。	目的に応じて、多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに、論理のすすめ方や表現の仕方などを工夫して、効果的に表現することができる。	課題解決のために、対象に対して自ら働きかけ、進んで挑戦することができる。	学んだことを、現在および未来の自分の生き方につなげて考えることができる。	共通の目標に向かって、多様なメンバーと連携しながら課題を解決し、やり切ることができる。	地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、郷土の発展に貢献することができる。
中期		目的に応じて、複数の事柄や資料などを関連付け、整理したり再構成したりして、適切に表現することができる。	課題解決のための過程において、対象に対して積極的に働きかけ、進んで挑戦することができる。	学習の過程や成果から、達成感や自信をもつことができる。	異なる意見や他者の考えを受け入れながら、課題を解決することができる。	郷土の伝統や文化を大切にし、地域社会の一員として貢献を意識して活動に参画することができる。
前期		目的をもって、複数の事柄や資料などについて自分で視点をもち、比較分類、関連付けてまとめて表現することができる。	目的を明確にして、課題の解決に向けて、見通しをもって計画的に挑戦することができる。	学習の成果から、達成感や自信をもつことができる。	校内や地域の人と関わりながら、協力して課題を解決することができる。	地域のよさを理解し、感謝する心をもって地域と関わる活動に参加することができる。

2 カリキュラムマップ作成にあたり、発達段階ごとに大切にしたい視点

	大切にしたい視点	総合的な学習の時間、各教科等の特徴的な配列や重視した取組等
後期	社会貢献・自己実現に向けて学ぶ	総合的な学習の時間では、地域参画の在り方についての学習を取り入れ、理科では環境保全の在り方を、国語科では市民と行政の2つの立場を踏まえて学習を進められるよう単元配列を工夫した。
中期	地域の「ひと・もの・こと」から学ぶ	国語科や社会科では、「思考力・判断力・表現力」の育成を重点化し体験活動や調べ学習を取り入れながら、総合的な学習の時間との関連を図った。
前期		生活科・総合的な学習の時間では、中期・後期の学習を見据え、地域の「ひと・もの・こと」について課題意識を持てるような単元を配置した。

3 本中学校区のカリキュラムマップの特徴

- 生活科・総合的な学習の時間は、9年間を通して、「生き方学習」と「ふるさと学習」を系統的に配列している。これは、本中学校区の学校教育目標「ふるさとを愛し、よりよい未来の創り手となる児童生徒の育成」を受けて設定したものである。「生き方学習」では、義務教育9年間の出口である進路選択において、各生徒が自分なりの自己実現を可能にするための資質・能力を身に付けられるような単元づくりを、「ふるさと学習」では、自らのルーツである安浦町について理解し、よりよい自己実現の土台を築くために、地域の資源「ひと・もの・こと」を生かした単元づくりを進める。その際、地域と連携した体験活動を大切にしながら、前期は情報収集、中期は情報収集・情報発信を中心とした「学ぶ」学習形態を、後期では、情報発信・地域貢献を中心とした単元構想を計画している。